



日本糖尿病・肥満動物学会 NEWS LETTER

Vol.15 No.2 December 2011

1) 号頭言 (栗田卓也先生)	1
2) 第25回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を終えて (門脇孝先生)	2
3) 第26回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催にあたって (中村二郎先生)	2
4) 第26回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内	3
5) 若手研究奨励賞を受賞して (4)	4
6) 平成22年事業報告/会計報告	7
7) 平成23年事業計画/予算	9
8) 平成23年・平成24年 役員名簿	10
9) 日本糖尿病・肥満動物学会会則/賛助会員名簿	11

号頭言

「自然発症1型糖尿病ラットと米田先生の思い出」

栗田 卓也

埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科教授

1型糖尿病には複数の優秀な自然発症モデル動物が存在し、1型糖尿病の発症機序解明に大きく貢献してきた。BBラットはカナダで発見されアメリカで主に純系化されたが、NODマウスとKDPラットは日本で発見され日本で純系化されたものである。

私が曲がりなりにも研究を開始した1980年代の半ばは、遺伝子工学的技術が臨床的研究に応用され始めた黎明期であった。その後、世界的に疾患遺伝子ハンティングが盛んに行われるようになり、私自身もインスリンやインスリン受容体の遺伝子異常の同定や1型糖尿病とHLAクラスII遺伝子あるいはインスリン遺伝子上流多型との関連解析などを行い、ヒトの糖尿病遺伝学といったものを手探りで進めていた。

そんな折、今は亡き米田嘉重郎先生を恩師の金澤康徳先生からご紹介いただき、遺伝子解析のお手伝いを少しさせていただいたのが、私と糖尿病動物のなれそめである。米田先生の動物飼育に関する情熱と仕事ぶりは尋常ではなく、高発症率のKDP (Komedadiabetes-prone) ラットを樹立することに成功し、京都大学との共同研究による原因遺伝子Cblbの同定という画期的な業績につながるようになった (Yokoi N et al. Nature Genetics 31:39-394, 2002)。私自身は、1993年にBBラットの原因遺伝子同定を目指しマサチューセッツ大学・Like教授の研究室に留学した。BBラットのリンパ球減少を来たす遺伝子が重要であることを確認したものの遺伝子自体の同定には至らなかったが、BBラットで合併することが多い甲状腺炎(ヒトで

も合併は多い)についての遺伝学的な解析を行い、膵島炎と甲状腺炎がMHCクラスII遺伝子の別々の対立遺伝子により規定されることを明らかにすることができた (Awata T, Guberski DL, Like AA. Endocrinology 136:5731-57735, 1995)。帰国後、この結果をもとに、米田先生に共同研究をもちかけ(科学研究費基盤B)、橋本病モデルラットが首尾良く樹立されたが、米田先生のご逝去によりそれ以上に展開させることができなかったのは心残りである。なお、本ラット (BB.PVG-RT1^{u/a}) はナショナルバイオリソースプロジェクト「ラット」に寄託されているので、興味ある方は当たってみていただきたい。また、最近、横井博士(現・神戸大学)らにより、KDPラットからも同様のラットが樹立された。

次世代シーケンスによる全ゲノムシーケンスが身近なものになりつつあり、ヒト疾患遺伝子の網羅的な同定は目の前に迫ってきている。今後は、ヒトで得られた疾患遺伝子の機能を遺伝子改変動物で検討することが、ますます盛んになっていくと思われる。すでに、全ての遺伝子を標的とした網羅的かつ戦略的なノックアウトマウスの作成が欧米で進行しているとのことである。今思うと、ヒトでは一人一人の患者に過ぎない自然発症モデル動物の原因遺伝子の解析は宝探しにも似た「古き良き時代」の遺伝子ハンティングと言えるものであるが、少しばかり関与した者として、米田先生の人なつっこい笑顔とともに懐かしい思い出として記憶の片隅に残っている。

第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を終えて」

門脇 孝

東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授

このたびの東日本大震災におきまして被災されました皆様にご心よりお悔やみお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会は、当初本年3月18日(金)・19日(土)の2日間の開催の予定でしたが、東日本大震災を鑑み、延期させていただき、規模を縮小して、11月5日(土)に、東京大学本郷キャンパス武田先端知ビル5F「武田ホール」で開催いたしました。

特別講演は、「研究を支えるマウスの発生工学開発：最近の核移植、顕微授精、幹細胞、凍結技術について」と題して独立行政法人理化学研究所バイオリソースセンター遺伝子工学基盤技術室の小倉淳郎先生から最先端の研究成果について紹介され、多くの会員の皆様

から大変有意義だったと感想をいただきました。また、後藤賞を受賞された井上修二名誉会員からは、本学会の歴史をふり返りつつ受賞の喜びのご挨拶をいただきました。また、学会賞「米田賞」を受賞された近畿大学の池上博司会員からは「自然発症モデル動物を用いた糖尿病の遺伝解析」、ならびに「研究賞」を受賞された東京医科歯科大学の小川佳宏会員からは「糖尿病・肥満における慢性炎症の分子機構に関する研究」と題して受賞講演が行われました。さらに、若手研究奨励賞には14名の応募があり、大変熱のこもった発表がおこなわれ、審査の結果、本年は6名が受賞されました。受賞者の今後の活躍を期待したいと思います。最後に、本会の開催にあたり、大変なご協力をいただきました会員および関係者の皆様にご心より御礼申し上げます。

第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の開催にあたって

中村 二郎

愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科教授

この度、第26回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会のお世話をさせていただくこととなりました。伝統ある本学会の学術集会会長を担当させていただくことを大変光栄に存じますとともに、責任の重大さを痛感しております。第26回の学術集会は、2012年2月17日(金)、18日(土)の2日間、名古屋駅前の愛知県産業労働センターにて開催させていただきます。

本学会の前身である糖尿病動物研究会の第1回学術集会在1987年1月に開催されて以来、既に四半世紀が経過しました。この間、多くの先輩の先生方のご尽力により大きな発展を遂げてきました。そして、2007年2月には現理事長であられる門脇孝先生のリーダーシップのもと、「日本糖尿病・肥満動物学会」と改称され学会としてのスタートが切れ、学会として更なる発展を遂げてきたことに加えて、糖尿病および肥満に関する研究の発展に大きく貢献してきたことを疑う余地はありません。まだまだ会員数が少ないにもかかわらず各種の学会賞が創設され、とりわけ若手研究奨励賞が5名に授与されるというのは他に類を見ないものであり、本学会が若き人材の育成にも多大な貢献をしている証左でもあります。

今回の学術集会では、糖尿病動物を用いた研究を永

きに亘って牽引されてこられた中部ろうさい病院名誉院長であられる堀田饒先生より特別講演をいただく予定です。新たな四半世紀の出発に当たり、今後の我々の進むべき方向性に示唆を与えていただけるお話が伺えるのではないかと思います。また、第25回年次学術集会でシンポジウムとして予定されながら、東日本大震災の影響で開催されなかったテーマである「モデル動物を用いた糖尿病・肥満の成因と病態の解明」と「糖尿病モデル動物を用いた糖尿病合併症研究」を門脇先生のご了解のもと今回のシンポジウムとして計画させていただきました。本学会がメインテーマとして今後も追求すべき課題であると考えられます。この他に、ランチョンセミナー、イブニングセミナーも企画しており、会員の皆様にご満足いただける充実した年次学術集会となるよう、教室を挙げて全力で準備を進めているところであります。

会場となります愛知県産業労働センターは、JR名古屋駅正面のミッドランドスクエアのすぐ裏に位置し、周囲には数多くの飲食店が揃っており、名古屋の味を楽しんでいただく絶好のロケーションにあります。会員の皆様の多数のご参加と演題応募を心よりお待ちしております。

第26回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会のご案内

日 時：平成24年(2012年)2月17日(金)-18日(土)

開催地：愛知県産業労働センター 小ホール
 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-4-38
 TEL: 052-571-6131 JR名古屋駅より徒歩約5分
 URL : <http://www.winc-aichi.jp/>

会 長：中村 二郎(愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科教授)

参加費：会 員 :5,000円 非会員 :7,000円 懇親会費：無料

プログラム：

■特別講演

演者：堀田 饒 先生(中部ろうさい病院名誉院長)

■会長講演

演者：中村 二郎(愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科)

■シンポジウム1(指定)

「モデル動物を用いた糖尿病・肥満の成因と病態の解明」

座長：寺内 康夫先生(横浜市立大学分子内分泌・糖尿病内科)

座長：塩田 清二先生(昭和大学医学部第一解剖学教室)

■シンポジウム2(指定)

「糖尿病モデル動物を用いた糖尿病合併症研究」

座長：八木橋 操六先生(弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座)

座長：中村 二郎(愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科)

■学会賞「米田賞」、研究賞受賞講演(選定中)、一般演題(公募)、若手研究奨励賞(公募)、
 ランチョンセミナー、イブニングセミナー

お問い合わせ先：

第26回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会事務局
 愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科
 神谷 英紀(事務局)
 〒480-1195 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字雁又21
 TEL :0561-63-1683 FAX :0561-63-1276
 E-mail:hkamiya@aichi-med-u.ac.jp

年次学術集会及び演題登録に関するお問い合わせ
 第26回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会運営事務局
 株式会社セントラルコンベンションサービス内
 担当者：井上藤則、岩沙みどり
 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-19-28
 TEL :052-269-3181 FAX :052-269-3252
 E-mail : jseido26@ccs-net.co.jp

若手研究奨励賞を受賞して 4

《受賞演題》

アディポネクチンによる抗糖尿病作用の新規メカニズム

栗澤 元晴 東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科

この度は、第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会若手研究奨励賞を戴き、大変光栄に存じます。選出して下さいました選考委員の先生方、また学会関係者の方々に心より御礼申し上げます。

私は東京大学医学部糖尿病代謝内科において、一貫してアディポネクチンの作用機構を研究して参りました。これまでアディポネクチンの作用はAdipoR1, R2という二つの受容体を介したAMPKとPPAR α の2分子の活性化によって主に説明されてきました。本研究においては、アディポネクチンが悪玉サイトカインであるIL-6をマクロファージから誘導する事、また興味深いことに、その血中濃度が急峻に上昇した場合、IL-6はIRS-2を誘導する事でインスリン感受性亢進作用を発揮する事を見出しました。またこの過程で未知のアディポネクチン受容体の存在を示唆するデータを得る事が出来ました。この発見に携われた事を喜びに感じますと共に、これまでご指導下さった門脇孝教授、植木浩二郎准教授に心より御礼申し上げます。今回賜りました賞を励みに、研究の更なる発展を目指し日々研鑽を積み、少しでも医学の発展に貢献できるよう精進して参りたいと存じます。

《受賞演題》

Wilms' tumor 1-associating protein (WTAP)の肥満・糖代謝への関与の検討

小林 正稔 東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科

この度は、第25回日本糖尿病・肥満動物学会におきまして、若手研究奨励賞を頂きまして身に余る光栄と存じております。選考頂きました緒先生方に厚く御礼申し上げます。そして研究をご指導頂いております門脇孝先生、植木浩二郎先生、そして戸邊一之先生、大杉満先生に、深く感謝申し上げます。更に日頃実験を助けて下さっております共同研究者や実験助手の方々に、この場をお借りして感謝致します。

私が今回発表させて頂きました「Wilms' tumor 1-associating protein (WTAP)の肥満・糖代謝への関与の検討」では、Wtap \pm マウスが、脂肪組織・肝臓・マクロファージ等への影響を介して、肥満・糖尿病、脂肪肝に抵抗性となることを報告させて頂きました。その分子メカニズムについては現在検討中で、これを今後是非明らかにしていきたいと考えております。ま

た、このマウスの解析を契機として、肥満における一般的な病態生理について、興味深い知見も幾つか得ることができ、今後新たな研究課題としていきたいと考えております。今回の受賞を励みとし、これらの決意を一層強く致しました。今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしく御礼申し上げます。

《受賞演題》

グルコキナーゼ活性化薬によるAkitaマウスにおける小胞体ストレス誘導性アポトーシスの改善効果

白川 純

横浜市立大学大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学

この度は、第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして、第4回若手研究奨励賞に選出頂き、誠に光栄に存じます。学会長の門脇孝先生をはじめ、選考委員の緒先生方に厚く御礼申し上げます。

私は、グルコキナーゼを介した膵 β 細胞小胞体ストレス誘導性アポトーシスの制御機構について解析を進めて参りました。今回の研究では、グルコキナーゼ活性化薬が、小胞体ストレス誘導性糖尿病モデルマウスであるAkitaマウスにおいて、膵 β 細胞アポトーシスを抑制することを見いだしました。さらに、グルコキナーゼ活性化による小胞体ストレス誘導性アポトーシスの制御は、IRS-2を中心としたインスリンシグナル増強を介した経路と、IRS-2に非依存的に小胞体ストレス関連分子の発現を制御する経路の2つの異なる経路があることを明らかにしました。現在は、これらの分子メカニズムの解明を試みています。

最後に、ご指導頂きました横浜市立大学分子内分泌・糖尿病内科学寺内康夫教授、ならびに研究室内外の数多くの先生方、関係各位の皆様、心より感謝申し上げます。今回の受賞を機にさらなる精進と研鑽を重ねる所存ですので、今後とも御指導の程、何卒よろしく御礼申し上げます。

《受賞演題》

膵 β 細胞特異的ZnT8欠損マウスでは、膵からのインスリン分泌は亢進するが、末梢血中のインスリン濃度は低く、耐糖能が悪化する

田蒔 基行 順天堂大学医学部内科学糖尿病・内分泌学講座

この度は第25回日本糖尿病・肥満学会年次学術集会に参加させていただき、また若手研究奨励賞への参加という極めて貴重な機会を頂戴し誠にありがとうございました。受賞にあたりまして、日頃よりご指導いた

いております順天堂大学内科学糖尿病・内分泌内科の綿田裕孝教授・藤谷与士夫准教授をはじめ、ご指導賜りました諸先生方に深く感謝申し上げます。

ZnT8はゲノムワイド関連解析にて2型糖尿病疾患感受性遺伝子として同定されました。このタンパクは膵β細胞内において、細胞質から垂鉛をインスリン顆粒内へ流入させる役割は知られていましたが、糖尿病発症に寄与する機序は不明でした。そこで私たちは膵β細胞特異的ZnT8欠損マウスを作製しました。このマウスはブドウ糖負荷後、膵ランゲルハンス島からのインスリン分泌は亢進しているにもかかわらず、末梢血中のインスリン濃度は低下しているという面白い乖離を示しました。さらなる検討にて膵β細胞はインスリン顆粒の開口分泌の際、インスリンと共に顆粒内の大量の垂鉛を共分泌しており、この分泌された垂鉛が門脈内へと流れ込み、肝臓でのインスリンクリアランスを抑制していることがわかりました。すなわち、空腹時の状態では過剰なインスリンを除去するためインスリンクリアランスは亢進していますが、食後の状態ではインスリンと共に分泌された垂鉛によりインスリンクリアランスは抑制されます。この研究により膵から分泌された垂鉛による食前・食後のインスリンクリアランスの調節が耐糖能維持に大事かもしれないことがわかりました。今回の受賞を励みに2型糖尿病の病態解明へさらに尽力していきたいと思っております。

《受賞演題》

Exendin-4の糖尿病性多発神経障害に対する治療効果の検討

姫野 龍仁

名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学

このたびは、第25回日本糖尿病・肥満動物学会におきまして、若手研究奨励賞を頂くことができ大変光栄に存じます。今回の年次学術集會を成功に導かれた会長の門脇孝先生をはじめ、運営や選考にあられた諸先生方に、厚く御礼申し上げます。また受賞にあたりまして、日頃よりご指導頂いております大磯ユタカ教授、愛知医科大学医学部糖尿病内科(糖尿病センター兼任)に栄転されました中村二郎教授、神谷英紀准教授をはじめ、研究室内外の多くの諸先生方に厚く御礼申し上げます。

血糖降下作用を主目的とされたインクレチン関連薬が臨床に普及しつつあるなか、本研究ではGLP-1受容体作動薬であるexendin-4が糖尿病合併症の一つである糖尿病性多発神経障害に対しても治療効果を有する可能性があることを報告いたしました。本研究ではストレプトゾトシ

ン誘発糖尿病モデルマウスを用いしましたが、将来的には2型糖尿病モデル動物での治療効果を検討し、最終的にはヒトでの評価につなげて参りたいと考えております。

今後、今回の受賞を励みとし、さらなる精進と研鑽を重ねたいと考えております。ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

《受賞演題》

exendin-4はGKラット膵島においてEpac依存性にSrc活性を抑制することによりROS産生を減少させる

向 英里

京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学

第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集會において若手研究奨励賞を受賞致しましたことにつきまして、まずは年次学術集會会長の門脇孝先生をはじめ審査委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。我々の研究室では前教授清野裕先生の時代より、糖尿病におけるβ細胞からのインスリン分泌不全のメカニズムを研究するにあたり、糖尿病モデル動物としてGoko-Kakizaki(GK)ラットを用いてまいりました。GKラットは非肥満で日本人の糖尿病と非常に近い特徴を有しており、その動物を用いた研究によりβ細胞インスリン分泌不全の原因として糖代謝が障害されていることが明らかにされてきました。一方で、インクレチン薬が糖尿病治療薬として開発され、β細胞のみならず多種の臓器への作用・メカニズムの解明が現在勢力的に行われておりますが、そのような中、本演題のGKラット膵島に対するインクレチン薬の新たな作用とメカニズムの解明を行うことができました。本研究を遂行するにあたりご指導、ご支援をいただいた教授稲垣暢也先生に感謝申し上げますとともに、関係各位の諸先生方に心より感謝致します。今後においても、モデル動物を用いた研究成果が臨床現場で生じていることの原因究明や克服につながることを期待いたします。

第4回「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞受賞者報告

「日本糖尿病・肥満動物学会」では、平成19年より学会賞(後藤賞、学会賞「米田賞」、研究賞、若手研究奨励賞)を設けております。

第4回日本糖尿病・肥満動物学会の受賞者は以下の通りとなっております。

- 後藤賞：井上 修二 名誉会員(桐生大学副学長兼医療保健学部長)
 「視床下部腹内側核(VMH)破壊ラットの病態の研究
 ー腹部臓器細胞増殖の再生医療への応用をめざしてー
- 学会賞「米田賞」：池上 博司 会員(近畿大学医学部内分泌・代謝・糖尿病内科主任教授)
 「自然発症モデル動物を用いた糖尿病の遺伝解析」
- 研究賞：小川 佳宏 会員(東京医科歯科大学難治疾患研究所分子代謝医学分野教授)
 「糖尿病・肥満における慢性炎症の分子機構に関する研究」
- 若手研究奨励賞
 - 粟澤元晴 会員(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)
 「アディポネクチンによる抗糖尿病作用の新規メカニズム」
 - 小林正稔 会員(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)
 「Wilms' tumor 1-associating protein(WTAP)の肥満・糖代謝への関与の検討」
 - 白川 純 会員(横浜市立大学大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学)
 「グルコキナーゼ活性化薬によるAkitaマウスにおける
 小胞体ストレス誘導性アポトーシスの改善効果」
 - 田時基行 会員(順天堂大学医学部内科学糖尿病・内分泌学講座)
 「 β 細胞特異的ZnT8欠損マウスでは、膵からのインスリン分泌は亢進するが、
 末梢血中のインスリン濃度は低く、耐糖能が悪化する」
 - 姫野龍仁 会員(名古屋大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌内科学)
 「Exendin-4の糖尿病性多発神経障害に対する治療効果の検討」
 - 向 英里 会員(京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学)
 「exendin-4はGKラット膵島においてEpac依存性にSrc活性を抑制することにより
 ROS産生を減少させる」

平成22年事業報告 (平成22年1月1日～12月31日)

1. 庶務関係報告

1) 会員の動向(平成22年12月31日現在)

●会員数(総数 300名、平成21年末総会員数287名)

正会員

平成21年度末会員数	206名
平成22年新入会	15名
学生会員からの会員移行	1名
退会者	-9名
正会員現在数	213名

学生会員

平成21年度末会員数	44名
平成22年新入会	10名
正会員へ移行	-1名
退会者	-3名
学生会員現在数	50名

団体会員

1社(平成21年度末 1社)

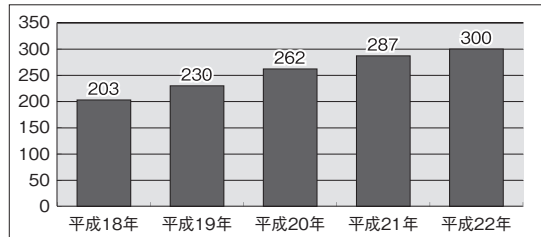
賛助会員

22社(30口)(平成21年度末 22社(30口))

名誉会員

14名(名誉会員現在数14名)

会員推移(平成18年～平成22年)



3) 諸会議

●常務理事会

第1回：平成22年1月16日

(於：東京ステーションコンファレンス(東京))

第2回：平成22年7月6日

(於：東京ステーションコンファレンス(東京))

第3回：平成21年11月13日

(於：東京ステーションコンファレンス(東京))

●理事会／評議員会

第1回：平成22年1月22日

(於：ホテルコスモスクエア大阪国際交流センター (大阪))

●総会／産学協議会

第1回：平成22年1月23日

(於：ホテルコスモスクエア大阪国際交流センター (大阪))

2. 会計関係報告

1) 平成22年会計報告(平成22年1月1日～12月31日)

科 目	金 額	摘 要
収入の部		
1. 平成21年繰越金	3,186,485	
2. 会費収入		
平成22年会費(2,369,000円)		
正会員	870,000	5,000円×174名
学生会員	37,500	1,500円×25名
団体会員	10,000	10,000円×1社
賛助会員	1,350,000	50,000円×17社(27口)
他年会費(平成20～21、23年分)(※1)		
正会員	100,000	5,000円×20名
学生会員	1,500	1,500円×1名
3. 助成金	1,000,000	鈴木万平糖尿病学国際交流財団
4. バナー広告収入(20,000円/1ヵ月)(※2)	520,000	2社掲載
5. 雑収入(預金利息)	388	
収入合計(A)	7,075,873	
支出の部		
1. 印刷費		
ニュースレター編集・印刷費	250,950	Vol.14, No.1、No.2(2回分)
挨拶状コピー代	103,299	会費請求、総会案内状、封筒増刷
2. 会議費	714,960	会場費、交通費
3. 通信費	101,080	切手代及び発送代等
4. 学会運営補助金	1,000,000	1) ニュースレター 2) 年会費請求、総会案内状等
5. 事務用品費	2,835	第25回日本糖尿病・肥満動物学会
6. 旅費交通費	91,802	事務局出張費(大阪)
7. 名簿管理・事務代行費(株創新社)	315,000	毎月:21,000円×12ヵ月
8. ホームページ維持・管理・更新費(株創新社)	252,000	年次学術集会月:63,000円×1ヵ月
9. 学会賞関連	760,745	毎月:21,000円×12ヵ月
10. 振込手数料	27,437	第3回学会賞各賞
11. その他	23,922	糖尿病動物診断基準別刷り
支出合計(B)	3,644,030	
次期繰越(A)-(B)	3,431,843	

※1 他年年会費には、次年平成23年正会員年会費10,000円(5,000円×2名)が含まれております。

※2 バナー広告収入には、次年平成23年広告掲載料40,000円(20,000円×2ヵ月)が含まれております。

3. 年次学術集会関係報告

1) 第24回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会

会 長：池上 博司(近畿大学医学部内分泌・代謝・糖尿病内科)

会 期：平成22年1月22日・23日

会 場：ホテルコスモスクエア国際交流センター(大阪)

参加人数：188名

発表演題：特別講演 1題、会長講演 1題、
受賞講演(学会賞「米田賞」、研究賞)2題、
シンポジウム9題、ランチョンセミナー 2題、
イブニングセミナー 1題、一般演題 40題

第3回若手研究奨励賞受賞者：

岩部 美紀 正会員

(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)

「アディポネクチン受容体の動脈硬化に対する作用とその生理的・病態生理的意義の解明」

笹子 敬洋 正会員

(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)

「摂食に伴う肝臓での小胞体ストレス、及びその調節因子のインスリン感受性に 及ぼす作用の検討」

新堂 修康 学生会員

(大阪大学大学院医学系研究科老年・腎臓内分学)

「非アルコール性脂肪肝炎の発症メカニズムの解明：自然発症モデルを用いた検討」

高本 偉碩 正会員

(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)

「膵β細胞のTcf7l2は膵β細胞量維持に重要な役割を果たしている」

御簾 博文 正会員

(金沢大学医薬保健研究域医学系恒常性制御学)

「ヒトトランスクリプトームから同定したインスリン抵抗性誘導ヘパトカインセレノプロテインPの個体レベルでの機能解析」

4. ニュースレター関係報告

Vol.14, No.1: 平成22年6月30日発行 400部発行

掲載内容

- ・巻頭言：塩田清二正会員
- ・第24回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催を終えて：池上博司正会員
- ・第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
- ・糖尿病モデル動物の紹介(13)：GKラット(後藤由夫名誉会員)
- ・特別寄稿：血糖上昇限界値と糖尿病動物(後藤由夫名誉会員)
- ・若手研究奨励賞を受賞して(3)
(岩部美紀正会員、笹子敬洋正会員、新堂修康学生会員、高本偉碩正会員、御簾博文正会員)
- ・第3回学会賞各賞の授賞者報告
- ・平成21年事業報告、会計報告、平成22年事業計画、予算
- ・平成21年、22年役員名簿
- ・その他

Vol.14, No.2: 平成22年11月30日発行 400部発行

掲載内容

- ・号頭言：寺内康夫正会員
- ・第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催にあたって：門脇孝正会員
- ・第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
- ・賛助会員の研究(12)：大正製薬株式会社
- ・その他

5. 「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞 関係報告

1) 第3回受賞者一覧(授賞式：平成22年1月22日)

●後藤賞：

清野 裕 名誉会員(関西電力病院院長)

「糖尿病モデル動物を用いたインスリン分泌機構の解明」

●学会賞「米田賞」：

佐藤 譲 正会員(岩手医科大学内科学講座
糖尿病代謝内科分野教授)

「サイトカイン制御による1型・2型糖尿病および糖尿病合併症の治療の研究」

●研究賞：

植木浩二郎 正会員(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科准教授)

「遺伝子改変マウスを用いたインスリン作用とその破綻の分子機構の解明」

2) 第4回学会賞各賞の募集の実施

6. その他

1) 糖尿病動物診断基準について検討するワーキンググループについて

①報告書の掲載(雑誌「糖尿病」(第53巻第5号))

2) ホームページについて

①ホームページアクセス数(ページビュー)

平成20年	1月1日～1月31日	7,869
	2月1日～2月28日	7,254
	3月1日～3月31日	6,972
	4月1日～4月30日	6,764
	5月1日～5月31日	7,054
	6月1日～6月30日	6,973
	7月1日～7月31日	7,082
	8月1日～8月31日	6,687
	9月1日～9月30日	7,263
	10月1日～10月31日	7,345
	11月1日～11月30日	8,221
	12月1日～12月31日	8,002

②メールアドレス登録者数

- ・正会員 213名(登録数:メールアドレス有181名、無6名)
- ・学生会員 50名(登録者:メールアドレス有36名、無2名)
- ・団体会員 1社(登録者:メールアドレス有1名)
- ・賛助会員 22社(登録者:メールアドレス有12社、無1社)
- ・名誉会員 14名(登録者:メールアドレス有8名、無1名)

登録者合計 会員数 300名中

メールアドレス有:237名、無:10名

メールアドレス登録回答なし:53名

③平成21年1月1日～12月31日 更新内容

- 1) 第24回、第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の開催案内掲載
- 2) 第4回学会賞各賞の募集
- 3) 「疾患モデル動物一覧表」、
「Animal Models (commercially available in Japan)」の改訂
- 4) ニュースレター Vol.13, No.2、Vol.14, No.1の掲載

④その他

- 1) バナー広告募集の推進について
バナー広告掲載企業 2社(株シバヤギ、日本クレア(株))
- 2) メール配信の実施(更新案内など)
- 3) メールアドレス登録の推進

3) その他

平成23年事業計画 (平成23年1月1日～12月31日)

1. 庶務関係

- 1) 役員の改選
- 2) 会員関係 会員の増強について
- 3) その他

2. 会計関係

- 1) 平成23年予算の施行
(平成23年1月1日～12月31日)

科 目	金 額	摘 要
収入の部		
1. 平成22年繰越金	3,431,843	
2. 会費収入		
平成23年会費		
正会員	1,065,000	5,000円×213名
学生会員	75,000	1,500円×50名
団体会員	10,000	10,000円×1社
賛助会員	1,500,000	50,000円×22社(30口)
平成22年以前会費未納者分収入	447,500	正会員42件、学生会員25件 賛助会員3社(4口)
平成22年内正会員年会費入金済分	-10,000	5,000円×2名
3. 助成金	1,000,000	鈴木万平糖尿病学国際交流財団
4. バナー広告掲載料	480,000	20,000円×2社/1ヵ月
平成22年内入金済分	-40,000	20,000円×2ヵ月
収入合計(A)	7,959,343	
支出の部		
1. 印刷費		
ニュースレター編集・印刷費	300,000	2回分
挨拶状コピー代	100,000	会費請求、総会案内状、封筒増刷
2. 会議費	700,000	会場費、交通費
3. 通信費	200,000	切手代及び発送代等
		1) ニュースレター
		2) 年会費請求、総会案内状等
4. 学会運営補助金	1,000,000	第26回日本糖尿病・肥満動物学会
5. 事務用品費	50,000	
6. 旅費交通費	50,000	事務局出張費(東京)
7. 名簿管理・事務代行費(株創新社)	315,000	月々：21,000円×12ヵ月 年次学術集会月：63,000円×1ヵ月
8. ホームページ維持・管理・更新費(株創新社)	252,000	月々：21,000円×12ヵ月
9. 学会賞関連	800,000	第4回学会賞各賞
10. 振込手数料	30,000	
11. 予備費	500,000	
支出合計(B)	4,297,000	
次期繰越(A)-(B)	3,662,343	

3. 年次学術集会関係

- 第25回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の開催
 会 長：門脇 孝(東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)
 会 期：平成23年11月5日(土)
 会 場：東京大学工学部武田先端知ビル「武田ホール」

4. ニュースレター関係

- ニュースレターの発行
 年2回発行とする

5. 「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞 関係

- 第5回学会賞各賞の募集の実施

6. その他

- 東日本大震災における実験動物施設の飼育環境調査の実施
 ホームページの利用推進

平成23年、平成24年役員名簿

理事長 門脇 孝
 副理事長 八木橋操六
 常務理事 塩田 清二（会計担当）、寺内 康夫（庶務担当）、中村 二郎（編集担当）
 理事 粟田 卓也、池上 博司、稲垣 暢也、門脇 孝、佐藤 譲、槇野 博史、森 豊、八木橋操六
 監事 小川 佳宏、中里 雅光

評議員

阿比留教生 (長崎大学病院内分泌・代謝内科)	四方 賢一 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科新医療研究開発センター)
粟田 卓也 (埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科)	城石 俊彦 (国立遺伝学研究所系統生物研究センター哺乳動物遺伝研究所)
池上 博司 (近畿大学医学部内分泌・代謝・糖尿病内科)	杉本 一博 (弘前大学大学院医学系研究科臨床検査医学講座)
石田 均 (杏林大学医学部第三内科)	高橋 和眞 (岩手医科大学糖尿病代謝内科)
泉 哲郎 (群馬大学生体調節研究所遺伝子生化学分野)	寺内 康夫 (横浜市立大学大学院医学研究科分子内分泌・糖尿病内科学)
伊藤 壽記 (大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座)	戸辺 一之 (富山大学大学院医学薬学研究部内科学第一講座)
稲垣 暢也 (京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学)	中里 雅光 (宮崎大学医学部神経呼吸内分泌代謝学分野)
犬飼 浩一 (埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科)	中村 二郎 (愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科)
植木浩二郎 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)	永松 信哉 (杏林大学医学部生化学教室)
尾池 雄一 (熊本大学大学院医学薬学研究部分子遺伝学分野)	野田 光彦 (国立国際医療研究センター病院糖尿病・代謝症候群診療部)
小川 佳宏 (東京医科歯科大学難治疾患研究所分子代謝医学分野)	藤本 新平 (高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科)
小倉 淳郎 (理化学研究所バイオリソースセンター遺伝工学基盤技術室)	藤原 俊彦 (第一三共株式会社研究開発企画部)
小高 裕之 (武田薬品工業株式会社医薬研究本部)	槇野 博史 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学)
小野 憲一郎 (日本動物高度医療センター)	益崎 裕章 (琉球大学大学院医学系研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座)
片桐 秀樹 (東北大学大学院医学系研究科代謝疾患医学コアセンター)	箕越 靖彦 (生理学研究所発達生理学系系生殖・内分泌系発達機構)
門脇 孝 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)	宮川 潤一郎 (兵庫医科大学内科学糖尿病科)
亀井 淳三 (星薬科大学薬物治療学教室)	森 豊 (東京慈恵会医科大学附属第三病院糖尿病・代謝・内分泌内科)
窪田 直人 (東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科)	八木橋 操六 (弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座)
小林 直哉 (岡山大学西大寺病院)	山田研太郎 (久留米大学医学部内分泌代謝内科)
左向 敏紀 (日本獣生命科学大学獣医学部獣医保健看護学科臨床部門)	山田祐一郎 (秋田大学大学院医学系研究科内分泌・代謝・老年内科学)
佐藤 譲 (岩手医科大学糖尿病代謝内科)	横野 浩一 (神戸大学医学部総合内科学)
塩田 清二 (昭和大学医学部第一解剖学教室)	綿田 裕孝 (順天堂大学医学部内科学・代謝内分泌学)

日本糖尿病・肥満動物学会 会則

(名 称)

第1条 本会は日本糖尿病・肥満動物学会（英文では Japan Society of Experimental Diabetes and Obesity (JSEDO)）と称する。

(目 的)

第2条 本会は糖尿病・肥満動物の研究を通じて糖尿病をはじめ肥満、脂質異常症、高血圧症、動脈硬化などに関する学理および応用の研究についての発表、知識の交換、情報等の提供、啓蒙活動を行うことにより、医学、実験動物学、栄養学、薬学等の進歩をはかり、もってわが国における学術の発展と国民の健康増進に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術集会等の開催
- (2) 会誌、書籍、資料等の刊行
- (3) 研究の奨励および研究業績の表彰
- (4) 国内外の関係学術団体との連絡および提携
- (5) その他、産学協議会の設置ほか当学会の目的を達成するために必要な事業

(会 員)

第4条 本会の会員は次の通りとする。

1. 正 会 員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した個人
2. 学生会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した学生
3. 名誉会員 本会の発展に尽し、学術上顕著な功績のあった者で、理事会が推薦し、評議員会の議を経て総会で承認された者
4. 団体会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した団体
5. 賛助会員 本会の目的、事業を賛助する法人または団体

(入退会)

第5条 本会の会員になろうとする者は当該年度の会費を添えて所定の申込書を理事長に提出し、理事会の承認を得なければならない。ただし、名誉会員に推挙された者は入会の手続きを要せず、別に定める手続きを経、かつ本人の承諾をもって会員となるものとする。

2. 会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届けを提出し、理事会の承認を得なければならない。

(会 費)

第6条 本会の会費は別に定める。

2. 名誉会員は会費を納めることを要しない。
3. 会費は前納するものとする。前納した会費はいかなる理由があってもこれを返却しない。

(資格の喪失)

第7条 会員は次の理由によって、その資格を喪失する。

(1) 退会したとき

(2) 禁治産若くは準禁治産の宣告を受けたとき

(3) 死亡し、若くは失跡宣告を受け、または本会が解散したとき

(4) 除名されたとき

(役 員)

第8条 本会には次の役員をおく。

理 事 10名以上15名以内〔うち理事長1名、副理事長1名、常務理事（庶務、会計、編集）〕

年次学術集会長 1名

監 事 2名

(役員の選任)

第9条 理事（理事長、副理事長、常務理事を含む）は、理事会が正会員および賛助会員（登録者）から推薦し、評議員会の承認を得た上で、総会で選任する。ただし、賛助会員からの理事数は正会員からの理事数の3分の1を超えないものとする。

2. 理事は互選で理事長および副理事長を定める。
3. 常務理事は理事長が理事の中から推薦し、総会で選任する。
4. 年次学術集会長は理事会が正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。理事は年次学術集会長を兼務することができる。
5. 監事は理事会において正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。

(役員職務)

第10条 理事長は本会の業務を総理し、本会を代表する。

2. 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときは職務を代行する。
3. 理事は理事会を組織し、この規則に定めるもののほか、常務理事会からの提案事項その他を審議する。
4. 常務理事は理事長および副理事長とともに常務理事会を組織し、本会の実務にあたる。
5. 年次学術集会長は年次学術集会の会長を務める。必用に応じて常務理事会および理事会に出席して意見を述べることができる。
6. 監事は本会の業務および財産状況を監査し、これを理事会および総会に報告する。

(役員任期)

第11条 役員任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。ただし、年次学術集会長の任期は1年とし、再任は認めない。

2. 補欠または増員によって選出された役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする。
3. 役員はその任期終了でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

(評議員の選任)

第12条 本会には評議員をおく。

2. 評議員は正会員の中から理事会が推薦し、総会の承認を得て、理事長が任命する。
3. 評議員の任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。
4. 評議員は評議員会を組織して本会則に定める事項を行うほか、理事会の諮問があった事項、その他必要と認める事項について助言する。

(会 議)

第13条 定期総会は毎年1回開く。ただし、理事会が必要と認めたととき、または正会員の5分の1以上の要請があったときは、臨時総会を開くことができる。

2. 総会は会員の5分の1以上（委任状を含む）の出席をもって成立する。
3. 総会の議決は出席者（委任状を含む）の過半数をもって決する。

第14条 理事会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めたととき、または理事の3分の1以上から理事会招集の要請があったときは、理事長は20日以内に招集しなければならない。

2. 理事会の議長は理事長とする。
3. 理事会は理事現在数の3分の2以上出席しなければ会議を開き、審議することができない。
4. 理事会の議事は出席理事の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

第15条 常務理事会は理事長が招集し、毎年3回以上開催する。理事長が必要と認めたととき、または常務理事の3分の1以上から常務理事会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。

2. 常務理事は庶務、会計、編集等の役割分担を行い、実務を行う。

第16条 評議員会は毎年1回理事長が招集する。

2. 評議員会の成立および議決等は理事会に準じて行う。

第17条 本会に産学協議会をおく。

2. 産学協議会は本学会と産業界を取り巻く問題に

ついて意見を交換し、本会の目的を達成するための研究奨励および事業等について提言する。

3. 産学協議会は理事長、副理事長、常務理事および賛助会員から選出された若干名のものによって構成する。

4. 産学協議会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めたととき、または産学協議会委員の3分の1以上から産学協議会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。

(会 計)

第18条 本会の運営は会費その他の収入をもって充てる。

2. 本会に対する寄付金は理事会の決議を経て受理する。
3. 本会の会計および事業年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

(会則の変更)

第19条 本会則を変更するときは、理事会の議を経て、総会の承認を得るものとする。

(事務局)

第20条 本会の事務局は、株式会社創新社内に置く。

(付 則)

1. 本会則は平成19年2月10日より施行する。
平成20年2月9日 改定（第12条3項変更）
平成21年2月14日 同（第2条変更）

2. 本会の会費は次の通りとする。

正 会 員	5,000円
学生会員	1,500円
団体会員	10,000円
賛助会員	1口50,000円

3. 現在の幹事11名は、全員日本糖尿病・肥満動物学会の理事とする。

4. 本会は、会則を新たにして、これまでの日本糖尿病動物研究会を日本糖尿病・肥満動物学会として継続するもので、平成19年2月10日現在の日本糖尿病動物研究会のすべての財産を受け継ぐものとする。

賛 助 会 員 (2011年12月現在)

アステラス製薬株式会社、株式会社アニメック、エルエスジー株式会社、小野薬品工業株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社、株式会社三和化学研究所、塩野義製薬株式会社、株式会社シバヤギ、第一三共株式会社、大正製薬株式会社、大日本住友製薬株式会社、武田薬品工業株式会社、田辺三菱製薬株式会社、日研化学株式会社、日本イーライリリー株式会社、日本エスエルシー株式会社、日本クリア株式会社、日本たばこ産業株式会社、日本チャールス・リバー株式会社、ノボルディスクファーマ株式会社、持田製薬株式会社、株式会社森永生科学研究所

日本糖尿病・肥満動物学会

Vol.15 No2 December 2011

発 行 日：2011年12月20日

発 行 人：日本糖尿病・肥満動物学会理事長 門脇 孝

編 集 人：中村二郎（愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科）

編集及び学会事務局：〒105-0003 東京都港区西新橋2丁目8番11号 株式会社 創新社

TEL 03-5521-2881 / FAX 03-5521-2883

URL <http://jsedo.jp/> E-mail info@jsedo.jp